

更新検知ツール

[インストール手順書]

2010/10/21

独立行政法人 産業技術総合研究所
バイオメディシナル情報研究センター

ドキュメント名	0. 目次		
システム名称	更新検知ツール		
0. 目次			
本インストール手順書は、以下から構成されております。			
1. 更新検知ツール P. 2			
1.1 ディレクトリ構成 P. 2			
1.2 設定 P. 3			
1.3 動作環境 P. 5			
2. 管理GUI P. 8			
2.1 ディレクトリ構成 P. 8			
2.2 設定 P. 8			
2.3 動作環境 P. 9			
</			

ドキュメント名	1. 更新検知ツール
システム名称	更新検知ツール
<p>1.2 設定</p> <p>(1) ディレクトリのパーミッション 下記ディレクトリは、本ツール、及び管理GUIから書き込みが行われます。 よって、他人にも書き込み可能なパーミッション設定をしてください。</p> <pre> •log •update_reports </pre> <p>(2) ミラーサイトの場所 ミラーサイトを作成する場所を指定します。 DetectUpdate.pmの28行目を編集して下さい。</p> <p>例: /WWW/cgi-bin/gpmanager/mirror_site 下に作成するのなら、以下のように設定して下さい。</p> <pre>use constant WGET_OUTPUT_DIR=>' /WWW/cgi-bin/gpmanager/mirror_site';</pre> <p>* パスは、必ず絶対パスで指定して下さい。 * ディレクトリの後には、スラッシュ(/)を付けないで下さい(例では、mirror_siteの後)</p> <p>(3) XMLファイル出力の場所 XMLファイルを出力させる場所を指定します。 DetectUpdate.pmの29行目を編集して下さい。</p> <p>例: /WWW/detect_update/update_reports 下に出力させるのなら、以下のように設定して下さい。</p> <pre>use constant UPDATE_REPORTS_DIR=>' /WWW/detect_update/update_reports';</pre> <p>* パスは、必ず絶対パスで指定して下さい。 * ディレクトリの後には、スラッシュ(/)を付けないで下さい(例では、update_reportsの後)</p> <p>(4) wgetログファイルの出力場所 wget のログファイル出力場所(及びファイル名)を設定します。 DetectUpdate.pmの31行目を編集して下さい。</p> <p>例: /WWW/detect_update/log/wget.txt で出力させるのなら、以下のように設定して下さい。</p> <pre>use constant WGET_LOG_FILE=>' /WWW/detect_update/log/wget.txt';</pre> <p>* パスは、必ず絶対パスで指定して下さい。</p> <p>(5) ログの設定ファイルの場所 ログの設定ファイルの場所(及びファイル名)を設定します。 DetectUpdate.pmの32行目を編集して下さい。</p> <p>例: /WWW/detect_update/log/conf/log4perl.conf を設定ファイルとするのなら、以下のように設定して下さい。</p> <pre>use constant LOG_CONF=>' /WWW/detect_update/log/conf/log4perl.conf';</pre> <p>* パスは、必ず絶対パスで指定して下さい。</p> <p>(6) ログ出力の設定 ログ出力の設定ファイルを編集します。 log/conf/log4perl.conf の 4行目を編集して下さい。</p> <p>例: /WWW/detect_update/log/ 下にログファイルを出力させる場合、以下のように設定して下さい。</p> <pre>log4perl.appender.LOGFILE.filename = /WWW/detect_update/log/error.log</pre>	

ドキュメント名

1. 更新検知ツール

システム名称

更新検知ツール

(7) モジュール宣言

detect_update.pl の12行目を編集して下さい。

detect_update/pm を絶対パスで指定してください。

例: use lib qw(/WWW/detect_update/pm);

Interface.pm の16行目も、同様に編集して下さい。

(8) DB構築

本ツールをMEDALS2サーバ以外で動作させるためには、アイテムDBを構築する必要があります。

アイテムDB、及びその中のテーブル群を構築するSQLを適宜変更の上実行して下さい。

db/create_db.sql は、DBを作成するSQLです。

db/create_user.sqlは、ユーザを作成するSQLです。ユーザの作成が必要な場合に実行します。

db/create_tables.sqlは、テーブルを作成するSQLです。

DB構築に伴い、Item.pm 、 SubItem.pmとUpdateHistroy.pm を編集して下さい

Item.pmの7行目を編集して下さい。

DB接続のユーザIDとパスワードを設定します。

ユーザIDがroot、パスワードなしの場合は、以下のように設定します。

Item->set_db('Item', 'db:mysql:item', 'root', '');

SubItem.pmの7行目を、Item.pmと同様に編集して下さい。

UpdateHistroy.pmの7行目を、Item.pmと同様に編集して下さい。

(9) 管理GUIの設定

更新検知ツールをインストールした環境に合わせ、管理GUIの設定を行ってください。

管理GUIの設定は、P. 9をご覧ください。

(10) クーロンの設定

detect_update.pl は、定期的にWebサイトの更新を確認するプログラムです。

更新を確認させたい頻度で、クーロンを設定して下さい。

毎日21時に更新を確認する場合は、以下のように設定して下さい。

* 21 * * * cd /WWW/detect_update; perl detect_update.pl

ファイル名

インストール手順書.xlsx

PAGE

4

ドキュメント名

1. 更新検知ツール

システム名称

ポータルサイトMEDALS運用関連ツールの開発

1.3 動作環境

以下の環境で、動作を確認しました。

OS:

GNU/Linux

OSのリリース番号:

2.6.9-55ELsmp

マシンタイプ:

i686

プロセッサタイプ:

i686

ハードウェアプラットフォーム:

i386

必要なソフトウェア

•Perl

5.8.5

•Apache HTTP Server

2.0

•MySQL

4.1.20

•GNU Wget

1.12

•sendmail

リリース8

•tidy

released on 25 March 2009

必要なPerl モジュール

•Log::Log4perl

•Tie::IxHash

•Digest::MD5

•LWP::UserAgent

•File::Find

•File::Path

•URI

•HTTP::Request

•MIME::Base64

•Email::MIME

•Email::MIME::Creator

•Email::Send

•Unicode::Japanese

•Class::DBI

ファイル名

インストール手順書.xlsx

PAGE

ドキュメント名

2. 管理GUI

システム名称

更新検知ツール

2. 管理GUI

2.1 ディレクトリ構成

下記ディレクトリ構成で、MEDALS2サーバの/WWW/cgi-bin下にインストールして下さい。

gpmanger

.htaccess

edit.cgi

exec_item_insert.cgi

search_result.cgi

.htpasswd

edit_group.cgi

index.cgi

search_update_histry.cgi

add_item.cgi

exec_group_delete.cgi

item_group_list.cgi

update_check.cgi

count_registered_group.cgi

exec_group_update.cgi

item_update.cgi

delete_item.cgi

exec_item_delete.cgi

search_item_group.cgi

css

contents.css

thickbox.css

images

loadingAnimation.gif

medals_title.gif

js

config.js

form_utils.js

jquery-1.3.2.min.js

thickbox.js

pm

common.pm

system_config.pm

top.pm

template

add_item.tmpl

group_update.tmpl

update.tmpl

delete_item.tmpl

index.tmpl

update_histry_info.tmpl

form.html

information.tmpl

update_histry_info_null.tmpl

form_group.tmpl

item_group_list.tmpl

form_group_table.tmpl

item_info.tmpl

group_dalete_ok.tmpl

result.tmpl

2.2 設定

(1) pm/system_config.pm の編集

3. 更新検知ツールをインストールした場所に合わせ、以下を書き換えて下さい。

15～24行目

アイテムDBへ接続するための情報を設定します。
更新検知ツールをMEDALS2サーバ以外のサーバへインストールした場合、
インストール先に構築したアイテムDBの設定に合わせて設定して下さい。

47行目

ミラーサイトの場所を指定します。
ミラーサイトを構築した場所に合わせて設定して下さい。
絶対パスで指定し、最後のスラッシュ(/)は付けしないでください。

50行目

ミラーサイトへのリンクを設定します。
URLを指定し、最後のスラッシュ(/)は付けしないでください。

ファイル名

インストール手順書.xlsx

PAGE

6

ドキュメント名

2. 管理GUI

システム名称

更新検知ツール

(2) update_check.cgi の編集

3. 更新検知ツールをインストールした場所に合わせ、以下を書き換えて下さい。

3行目更新検知ツールを置いたディレクトリを指定します。
更新検知ツール(detect_update ディレクトリ) を、/WWW 下に置いた場合、以下のようになります。
use lib qw(./pm /WWW/);
* ./pm はそのままにしてください。
* /WWW/ のように、絶対パスで指定し、最後のスラッシュ(/) は付けてください。

(3) Apache の設定

ミラーサイトのディレクトリを、CGI実行不可にします。この設定をしないと、複数のミラーサイトのブラウジングができなくなります。
Apache の設定ファイルに、以下を追記して下さい。

<Directory "[ミラーサイトのディレクトリ]">
RemoveHandler cgi
Options -ExecCGI
order allow,deny
allow from all
</Directory>

* [ミラーサイトのディレクトリ] は、ミラーサイトを構築したディレクトリ

2.3 動作環境

以下の環境で、動作を確認しました。

OS:GNU/Linux

OSのリリース番号:2.6.9-55ELsmp

マシンタイプ:i686

プロセッサタイプ:i686

ハードウェアプラットフォーム:i386

必要なソフトウェア

•Perl5.8.5

•Apache HTTP Server2.0

•MySQL4.1.20

必要なPerl モジュール

•HTML::Template

ファイル名

インストール手順書.xlsx

PAGE

7